

(令和7年9月)

種 類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	9月の総入荷量は、前年同月比で4%上回ったが、総取扱金額は前年同月並みだった。高冷地、北海道といった比較的冷涼な産地ほど高温障害もあり秀品率の低下等が目立ったが、西日本産地では適度な雨もあり昨年より数量がまとまった品目もあった。今後も、高温や降雨量の不足の影響が尾を引き不安定な入荷が続くとみられ、品薄感から高値基調が見込まれる。 10月は、近郷野菜では、紫ずきんが終盤を迎え、かぶや海老芋などの根菜類の入荷が増える。果実では、梨やぶどうの入荷が減少し、極早生みかん及び刀根柿が最盛期を迎える。
野 菜	野菜全般の入荷量は前年同月比で4%上回り、単価は4%下回った。 根菜類の入荷量は前年同月比で16%上回り、単価は4%下回った。 葉菜類の入荷量は前年同月比で5%上回り、単価は8%下回った。 果菜類の入荷量は前年同月比で前年同年並みであったが、単価は6%下回った。 土物類の入荷量は前年同月比で4%下回り、単価は22%上回った。
果 実	果実全般の入荷量は前年同月比で4%上回ったが、単価は前年同月並みであった。 かんきつ類の入荷量は前年同月比で14%上回り、単価は5%下回った。 りんご類の入荷量は前年同月比で29%下回り、単価は25%上回った。 梨類の入荷量は前年同月比で19%上回ったが、単価は前年同月並みであった。 柿類の入荷量は前年同月比で18%下回ったが、単価は前年同月並みだった。

	ぶどう類の入荷量は前年同月比で 7 % 上回り、単価は 6 % 下回った。 メロン類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は 4 % 下回った。
--	--

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長だいこん	北海道を中心に、青森、岩手、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で30%上回り、単価は6%下回った。
西洋にんじん	北海道を中心に入荷した。生育時の高温と産地での降雨の影響で不安定な入荷となり入荷量は前年同月比で10%下回ったが、単価は前年同月並みであった。
【葉菜類】 はくさい	長野を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で3%下回り、単価は5%上回った。
キャベツ	群馬を中心に、長野などからも入荷した。入荷量は前年同月比で6%上回り、単価は5%下回った。
ほうれんそう	岐阜を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で4%上回り、単価は7%下回った。
レタス	長野を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で13%上回り、単価は26%下回った。
【果菜類】 きゅうり	京都、北海道、福島、愛媛、福岡などから入荷した。入荷量は前年同月比で3%上回り、単価は5%下回った。
なす	京都を中心に、高知、徳島、群馬、香川などからも入荷した。入荷量は前年同月比で4%上回り、単価は11%下回った。

とまと	岐阜、北海道を中心に茨城などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は６％下回った。
ピーマン	大分、茨木、青森を中心に、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で２８％上回り、単価は２１％下回った。
【土物類】	
ばれいしょ (メークイン含む)	北海道を中心に入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は１６％上回った。
たまねぎ	北海道を中心に、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で７％下回り、単価は４０％上回った。
【その他野菜】	
松茸	中国を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で３６％上回り、単価は３７％下回った。
栗	愛媛を中心に京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で５３％上回り、単価は１５％下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
極早生みかん	宮崎、熊本、和歌山などから入荷した。入荷量は前年同月比で11％上回り、単価は5％下回った。
津軽 (サン津軽含む)	青森を中心に、長野などからも入荷した。入荷量は前年同月比で30％下回り、単価は28％上回った。
豊水なし	長野、徳島、富山、佐賀、大分などから入荷した。入荷量は前年同月比で39％上回ったが、単価は前年同月並みであった。
二十世紀なし	鳥取、京都を中心に長野からも入荷した。昨年のようなカメムシ被害が少なかったため正品化率が高く入荷量は前年同月比で37％上回ったが、適度な降雨で大玉の入荷が増え単価は5％上回った。
刀根柿・平核無柿	和歌山を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で28％下回ったが、単価は前年同月並みであった。
巨峰	長野、山梨から入荷した。入荷量は前年同月比で7％下回ったが、単価は前年同月並みであった。
シャインマスカット	山梨、福岡、長野などから入荷した。入荷量は前年同月比で10％上回り、単価は7％下回った。
アールスメロン	茨城、静岡を中心に、鳥取、福井などからも入荷した。入荷量は前年同月比で3％上回ったが、単価は前年同月並みであった。